

▼最優秀賞受賞作品（俳句）

春零る<sup>はるこぼ</sup>

伊藤 清美

チェリストの白き指より春零る

星涼し宿に必ずある聖書

太陽の動けば傾ぐ砂日傘

御開きの合図となりし稲光

八月の溶けてひしゃげたガラス瓶

軍艦のやうな雲往く厄日かな

ぶどう摘む月の引力あふるる夜に

湿原に氷河期の花霧深む

凧や別れるときは顔上げて

追伸にこころ拡がる春隣

▼最優秀賞受賞作品（川柳）

幸せのかけら

松長 一步

ちよつとだけいい夢を見た目が覚める

ろうそくがゆらりほかほか揺れている

つつましい人ほどなぜかお金持ち

シヨックから三日も経てば立ち直る

墓参りコロナ落ち着く頃に行く

うやむやな気持が溶けてティータイム

それなりに何とかやっているみたい

いいことがたまにあるから救われる

頼り無しそれもいいかと忘れてる

諦めるめかけていた返事来てニコリ